身近なお寺の情報誌

ガナ

गण

組報 かながわ
浄土真宗本願寺派

VOL.30

高願寺／出城

組長就任挨拶

宣正寺 住職
早島 大英

まずは、長年にわたり神奈川組の充実・発展にご尽力下さいました小林泰善前組長に、心より感謝申し上げます。

その後任としてはあまりにも力不足の身ではありますが、何卒宜しくお願い致します。

幸いにして神奈川組は、教化活動を大切にされるご住職・坊守様方、活躍めざましい若手僧侶の方々、またご法義に篤いご門徒の皆さま方、こうしたお仲間に恵まれており、有り難く心強く思っております。ひとえに皆様のご指導ご協力を仰ぐばかりでございます。

おりしも、私たちの浄土真宗本願寺派では、第24代即如門主から第25代専如門主へと、お代替わりとなり、京都のご本山において二〇一六年一〇月より二〇一七年五月にかけて、伝灯奉告法要が営まれております。世の中は今大きく変わりつつありますが、お念仏の教えは、私たちを救い導き支えて下さる、変わらぬ法灯として、このように時代を超えて受け継がれてきていることに、思いを新たにすべき時でもありましょう。

首都圏の一角を担う神奈川組は、構成数も近年増加し、三〇ヶ寺、三布教所となりました。「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」の願いのもと、和合を旨として、皆様と共に歩んでまいりたいと思っております。

仏様に導かれる私の人生

西勝寺　南本 聡乗

私は、歯科医師をしていましたが、縁あって僧侶になりお寺を継ぐことになりました。

一般の家庭に生まれ育ちましたが、お寺との縁がまったくなかった訳ではありません。私の母方の祖父は山口県のとある浄土宗のお寺に生まれました。その祖父は、僧侶になるのが嫌だったようで、そのお寺は祖父の妹が継ぎ、ご養子を迎え住職になっていただいていました。私は母子家庭で育ちましたが、母は仕事で忙しかったので、私は夏休みや冬休みなどはよくお寺で過ごしておりました。小学校3年か4年のある時、お寺に行くと、とてもかわいい茶トラの猫が居ました。人懐こいその猫を抱きながら、住職に「この猫、名前はなんていうの？」と聞きましたら、「ラゴラだよ」と教えてくれました。当時は、ウルトラマンやゴジラといった一大怪獣ブームでしたので、「怪獣みたいな名前だね」と言いましたら、住職は「ラゴラはお経からいただいたんだよ」と教えてくれました。あれから何十年か経ち、西勝寺を継ぐ事になり、東仏に通い勉強を始めました。そして「仏説阿弥陀経」に「羅睺羅」を見つけた瞬間、背筋に何かが走ったように感じ、追いかけていた答えが見つかったような気がしました。

10歳の頃のたわいもない会話が私の記憶にずっと残ってい

たのは、もしかしたら、私に「羅睺羅」を見つけて欲しいという仏さまの願いがあったからなのでしょうか？　大げさに言えば、あの時既に私が僧侶になる事は決まっていたのかもしれないとさえ思ったりします。

親鸞聖人の代表的ご著書『教行信証』（正式書名『顕浄土真実教行証文類』）のはじめの総序には、「たまたま行信を獲ば遠く宿縁を慶べ」と書かれています。

いまこうやってお寺での生活をしていると、親鸞聖人のお言葉が身にしみて感じることがあります。

女手一つ、苦労して育てた私が、歯科医を辞めて僧侶になるというのは、母にしてみれば複雑な思いもあったと思います。それでも毎年報恩講には上京してくれます。私が初めて自坊の報恩講に出勤したとき、法要後「どうだった？」と尋ねると、「まあまあね」との母は答えました。やはり母の見方は厳しいですね。翌年は導師を勤めましたが、法要後、「涙が出た」と言ってくれました。そして、ポツリと一言「私はあなたがお坊さんになるような気がしていたのよ」と。母が妊娠した当時はエコー診断というものは無く、周囲の人は皆「女の子だろう」と言っていたそうです。ある夜、元気な子が生まれますように、と仏壇に手を合わせている母の隣で、クリクリ坊主頭の小僧さんが手を合わせているという夢を見たそうです。ですから、生まれてくるのは男の子に違いないと。それは「夢告」だったのでしょうか。あの夢の中の小僧さんは、未だ半人前のお坊さんです・・・。

合掌

仏教教室

三国伝来の七高僧（4）

道綽禅師

（生没年代五六二～六四五）

■曇鸞の碑文を拝し浄土教に帰依

道綽の誕生地は、中国の北斉の并州汶水とも并州晋陽（太原）ともいわれる。当時は南北朝時代の末で、北朝の東部を北斉、西部を北周が支配。南朝は陳が支配していた。

北斉では、イナゴの大群による被害、干ばつ、水害による飢饉などが続いた。そうした中、道綽は十四歳で出家。しかし出家二年目に隣国北周の武帝により北斉は制圧され仏教は迫害を受ける。僧侶は還俗を強制され仏像経典は焼かれ寺院は貴族の邸宅として供出させられた。やがて隋の文帝（楊堅）が即位すると、仏教は再興が許可され、二十歳となっ

た道綽は再び出家の道を歩むこととなった。当初『涅槃経』を研究し、その後は初期釈尊教団を理想とした静かな修行生活をしていたという。

六〇九年、四十八歳となった道綽は、たまたま玄中寺に参拝した際、曇鸞の功績を刻む碑文を見て感動する。ここで末法の時代と無力な人間に相応しい仏教、浄土教に帰依することになる。以降、玄中寺において『観経』を講ずること二百回。称名念仏日課七万遍の生活をおくり、八十四歳にて入滅した。著書に『安楽集』二巻がある。

▲玄中寺は、曇鸞大師が中国・山西省 交城県石壁山の南に建立した寺院

■聖道門と浄土門

仏教においては釈尊滅後五百年は、仏の「教」と、それにもとづき「行」を修する者、さらに行を修めたことによって「証」（さとり）を得る者も輩出するので、これを正法の時代といい、次の一千年は「教」と「行」というかたちは存続するものの、さとりを得るものがいなくなるので像法の時代と呼ぶ。さらにそれ以降の一万年は「教」は存続するが行ずる者もさとりを得る者もいない末法の時代となる、という仏教史観があった。道綽が生まれた頃は、末法思想を説く経典が多く翻訳され、時代もちょうど末法に入ったという危機意識が急速に広がっていた。

『安楽集』の中で道綽は、仏教を自力修行による聖道門と、他力念仏による浄土門の二つに分類してとらえ、浄土門こそが、末法という時代にも適合し、かつ深い教理や理解力の微弱な人間資質にも対応する教えだということを明らかにした。

「当今は末法にしてこれ五濁悪世なり。ただ浄土の一門のみありて通入すべき路なり」（今の時代は末法であり、戦争や天災などの時代情勢の悪化・思想の乱れ・欲望や憎悪の横行・人間資質の低下・命の弱体化など、濁りきった悪世である。それでもただ一つ、浄土の教えだけは、さとりの世界にいたることのできる道である）

と、浄土念仏を勧めたのである。

■三不三信のおしえ慇懃にして

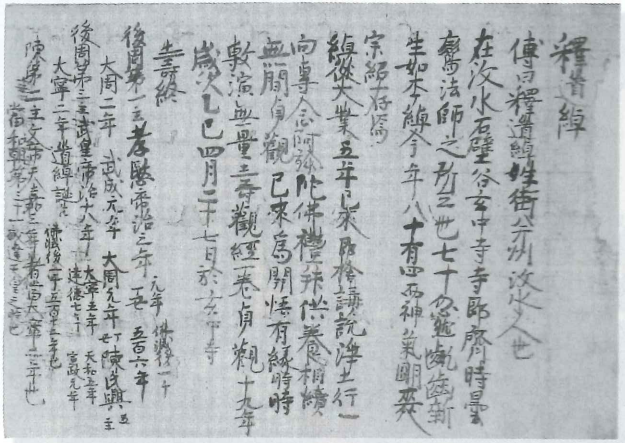
七高僧第三祖の曇鸞は、第二祖天親菩薩の表明された「一心」という信心を解釈するなかで、「一心」ではないありかた、つまり一心にかなっていない凡夫の心のありようを三つに開いて指摘した。それは「不淳」「不一」「不相続」の心で、これを「三不信」と総称する。「不淳」は、信心が純粋でなく、あるときは「往生できる」と思ったり、またあるときは「それは無理だ」と思ったりする心。「不一」は、あれこれと自力のはからいが入り混じって思い定まらない心。「不相続」は持続しない心である。

こうした先哲の教えを受け継いだ道綽は、曇鸞の「三不信」を、その反対の側面すなわち「淳心」「一心」「相続心」の「三信」を示すことによって、念仏のかなめである信心について丁寧に説示した。浄土門こそが、像法も末法も、さらに法滅（教えがなくなる）の時代になっても、すべての時代を通じて、人々を平等に救い導く教えであると説いた。

■平成の発見　ご真筆「道綽略伝」

平成四年に西本願寺の蔵から、道宣『続高僧伝』および迦才『浄土論』からの抜粋を書き写した一枚のメモが発見された。鑑定の結果、親鸞聖人五十代の関東在住の頃の筆跡と判明した。道綽在世当時の中国皇帝年号などを列挙し、「仏滅後一千五百六年」などの書き込みがある。末法に入った時代はこの頃とされていたので照合し算出していたようである。

面白いのは、『続高僧伝』の記述の中から「七十にして忽然と齔齒新たに生え本の如し」と、道綽が高齢になっても歯が生えたという、そんなエピソードのくだりをメモしていることだ。親鸞聖人も身体管理には関心をお持ちになっていたのだろう。



▶「道綽略伝」親鸞筆　西本願寺蔵

新たな始まり

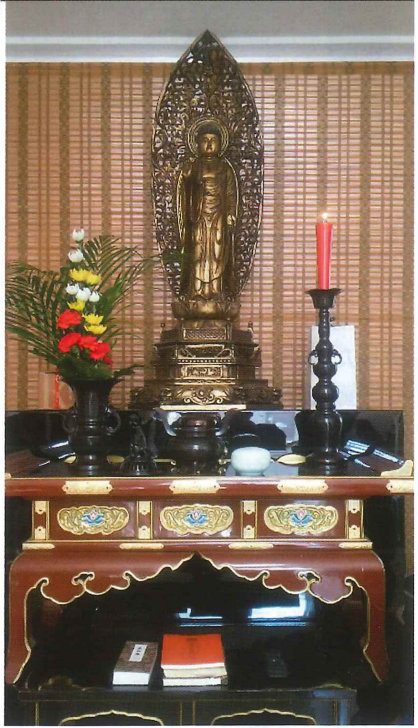
川崎多摩布教所 慶念寺（きょうねんじ）

今年の「お寺を訪ねて」では、川崎多摩布教所慶念寺（きょうねんじ）さんを訪ねました。神奈川組の活動によく参加されていても、行った事のない方が多いと思います。それもそのはず、慶念寺は去年の十一月一日に新しく開所された布教所だからです。場所は、ＪＲ南武線の登戸駅と中野島駅の中間あたりの線路沿いに位置します。

今回取材で伺った日は、慶念寺で初めての法話会となる「親鸞聖人報恩講法話会」が開かれる日でした。少し早めに着くと専従員の小林賢五さんが迎えてくださいました。しばらくすると続々とご門徒の方々がお参りに来られました。法要では正信念仏偈をみなでお勤めをし、続いて約一時間のご法話がありました。その後、参拝された方々と雑談しながらお茶をいただき、この日の「親鸞聖人報恩講法話会」は終了いたしました。

みなさんが帰られた後、小林賢五さんにお話をうかがいました。慶念寺さんに行った事のない方も、小林賢五さんを知っている方は多いと思います。登戸にある長念寺、小林泰善住職の次男で、神奈川組の活動にもよく参加されています。

「親鸞聖人報恩講法話会」正信念仏偈をお勤め ▶



▲一木造のご本尊

都市開教寺院のほとんどが同様なのですが、最初は一般住宅の家屋を利用して本堂と庫裏が一体の建物からスタートします。慶念寺も、一般住宅の家屋からスタート一階部分が本堂です。開所するとき、できるだけ礼拝するところを整えたいと考えていたそうです。慶念寺の本堂部分は、限られたスペースを有効に生かしながら、礼盤、前卓、本尊が荘厳されておりました。ご本尊を安置している部分には工夫がされてありました。ご本尊の後ろは台所になっているのですが、お参りに来られた方から見えないように、翠簾（すだれ）に似たロールカーテンと和紙が掛けてあり、落ち着いてお参り出来るように配慮されていました。

慶念寺のご本尊は、小林賢五専従員のお姉さまのご縁で、長崎県雲仙市愛野にある光西寺さんからお迎えしたそうです。そのご本尊は、一本の木材を彫刻する一木造（いちぼくづくり）で作られています。

今回の法話会では、ご門徒さんが来てくれるか心配していたが、長念寺の皆さんが来てくれて良かったとの事でした。これからも毎月第二土曜の二時から小林賢五さんが法話会を続けていかれるそうです。自分自身を肯定出来にくい時代だからこそ、そのままでいいよとおっしゃる阿弥陀さまのお心をお取り次ぎしていきたいと話してくださいました。

また、より多くの活動をしていきたいとのこと。来年度には、場所は未定ですが、「医療と仏教」をテーマにしたシンポジウムを築地本願寺と共に開催する予定になっています。こちらも是非ご参加ください。

◆慶念寺メモ◆

〒214－0012
川崎市多摩区中野島4-24-2-5
電話 044－819－5482

『三帖和讃』

和讃とは仏、菩薩、経典、教義、祖師や先人の徳を、和語を用いてほめたたえる讃歌です。親鸞聖人は今様形式の和讃を数多く残されており、その数は五百首を越えています。特にその中の、『浄土和讃』『高僧和讃』『正像末和讃』をまとめて「三帖和讃」と呼んでいます。

『浄土和讃』は、経典などによって阿弥陀さまと阿弥陀さまの浄土の徳を讃嘆した内容になっており、百八十首がおさめられています。日頃より親しんでいる正信念仏偈でお勤めをしている六首は、『浄土和讃』のはじめの方に記されています。

『高僧和讃』は、インド・中国・日本の三国にわたる七人の浄土教の先達の教を、その方々の事蹟や著作に即して讃嘆されています。計百十九首しるされており、直接教を頂いた法然聖人を讃嘆する和讃は二十首おさめられています。

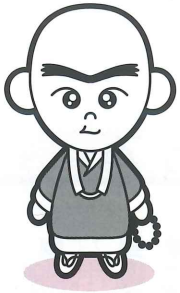
『正像末和讃』は、親鸞聖人が八十五歳以降に成立したとみられています。

正像末とは、お釈迦さま入滅後、時代が移るにつれて次第に仏教が衰微していく状況を表しています。お釈迦さま入滅後、「正法」五百年(あるいは千年)の間は「教(仏の教法)」、「行(実績)」と「証(さとり)」の三つが残っている時代。「像法」千年は「教」と「行」の二つが存在し「証」が無い時代。「末法」一万年は「教」のみが残り、「行」と「証」の無い仏教衰微の時代をいいます。このお釈迦さまが入滅されてからの時代を三時に分けた思想のことをあらわします。

正像末和讃には、親鸞聖人晩年の信境の深まりや、正像末の三時に渡っても変わることの無い阿弥陀さまのおはたらきの味わいがうかがえます。計百十六首からなり、法座の最後などで歌われることの多い「恩徳讃」は『正像末和讃』に記されています。

Q&A

『教えて！ガナちゃん』2017



―お釈迦さまの弟子には、いろいろな人がいたんだって？

（ガナちゃん）　お釈迦さまにはとてもたくさんの弟子がいたと言われているけど、お釈迦さまはそれぞれの人にあった道を説きすすめたんだ。

―たとえばどんなお弟子さんがいたの？

（ガナちゃん）　シュリハンドク（周梨槃特）というお弟子さんは、十大弟子の一人に数えられる方なんだけど、物覚えが悪くて自分の名前も忘れてしまうほどだったんだ。だから、お釈さまの教えを聞いても理解できないし、すぐに忘れてしまうという人だったんだ。

―へぇー！そのお弟子さんが、なんで十大弟子の一人のような人になったの？

（ガナちゃん）　いつも失敗ばかりのシュリハンドクさんにお釈迦さまは帚（ほうき）を授けて「塵（ちり）を払わん　垢（あか）を除（のぞ）かん」と唱えながら掃除をするよう命じた。そして何十年も黙々と掃除を続けた結果、誰もが尊敬するようなお坊さんになったんだ。

―なるほどな～。やっぱり何事も続けるって大事なんだね！

（ガナちゃん）　うーん、それだけじゃないと思うんだ。ある時、子どもたちが遊んでいてせっかくきれいに掃除をした所をまた汚してしまった。シュリハンドクは思わず箒を振り上げ怒鳴った。

「こら！どうして汚すんだ。」その瞬間、彼は本当に汚れている所に気がついた。

それ以来、汚れが落ちにくいのは人の心も同じだと悟り、ついに仏の教えを理解して、阿羅漢になったんだって。お釈迦さまは、そんなシュリハンドクが一生懸命に掃除をしている姿をいつも手を合わせて拝んだそうだ。

―シュリハンドクというお弟子さんも凄いけど、お釈迦さまもやっぱり凄いね。

（ガナちゃん）　お釈迦さまは、その人の能力や理解力に応じて、あるいはその人の悩みや苦しみに応じて法を説いたんだ。「対機説法（たいきせっぽう）」や「応病与薬（おうびょうよやく）」と言われるようにね。つまりね、お釈迦さまはさまざまな仏になる道を示したんだ。多くの宗派が存在するというのも、そういうことなんだ。

2016 ログポー記録指針

3月

3月22日(火)
高願寺・宮本妙子前坊守(92歳)が往生されました。

5月

5月18日(水)

■神奈川組仏教壮年会総会・第100回研修会
善然寺にて

記念講演は、松島法城師(兵庫教区多紀組専福寺)より、「全分他力―宮内大厳師と原口針水和上―」をテーマにお話しいただきました。
神奈川組仏教壮年会では年4回の研修会を行います。

5月23日(月)

■神奈川組・仏教婦人会連盟〈めぐみ会〉総会と研修会
常念寺にて

記念講演は、本願寺津村別院輪番の木下慶心師より「このたびむなしくすぎなまし」と題してお話しいただきました。
めぐみ会は組内各寺院の婦人会の連盟です。毎年、総会・研修会を開催し、各婦人会との交流と親睦をはかっています。また、めぐみ会では、ダーナ(布施)活動として募金を行い、宗派を通して社会福祉に役立てる活動をしています。

7月

7月27日(水)～29日(金)

■南ブロックお寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨3県より小学3年～中学3年の子供たちが集まり開催されています。
愛川ふれあい村(神奈川県愛甲郡愛川町)にて開催されました。

第45回 お寺の林間学校　愛川ふれあい村にて開催

9月

9月8日(木)

■〈めぐみ会〉研修会

津守秀憲師(兵庫教区神戸中組徳本寺)を講師に、「お西さんを知ろう！ 出張編」と題して、寿福寺にて1日研修を行いました。

LogPose 2017

11月

11月9日(水)

■神奈川組仏教壮年会行脚

群馬県の西蓮寺（藤岡市）と蓮照寺（富岡市）を参拝しました。

群馬県（富岡市）「蓮照寺」

5月

5月

■神奈川組仏教壮年会総会・研修会

神奈川組仏教壮年会では年4回の研修会を行っています。

5月

■〈めぐみ会〉総会・研修会

神奈川組の仏教婦人会連盟「めぐみ会」の恒例行事です。

7月31日(月)～8月2日(水)

■南ブロックお寺の林間学校

今年は神奈川組の担当で、西本願寺参拝を予定しています。参加をご希望の方は所属寺までお問い合わせください。

7月

10月

■門徒役員研修会

各寺院の門徒役員の研修会を行っています。

10月

■〈めぐみ会〉研修会

仏教婦人会の一日研修会です。

10月

10月

■神奈川組・仏教壮年会　行脚

毎年、日帰りの日程でお寺巡りの旅行を企画しています。

本願寺教学伝道研究所 仏教書レビューより　http://crs.hongwanji.or.jp/kyogaku/review/index.htm

『心とはなにか 仏教の探求に学ぶ』竹村 牧男 著（春秋社 2016年8月20日 本体1,900円＋税）

「心」を論究していく書籍は決して珍しくはないが、本書のサブタイトルにあるような、仏教の探求を通して言及した書籍は多くないのではないだろうか。２５００年以上の歴史を持つ仏教思想のなかでも、とりわけ「唯識」と呼ばれる思想は、しばしば「こころの仏教」と称されるほどに「心」を深く追究していることで知られる。その唯識思想に精通した著者が、「心とはなにか」をテーマとして種々の仏教的見地、すなわち原始仏教や唯識思想、あるいは禅や真言・浄土教などの幅広い視点から、わかりやすく解説したのが本書である。

今日、さまざまな場面で「心」にかかわる問題が取り上げられている。著者は、そのような社会的事情を踏まえて「宗教への関心が薄れている現代だからこそ、仏教の到達した心に注目して、今一度、心の主体性を回復し確立していく必要があると思います。この心を見直し掘り下げるところに、実は現代社会の問題を解決していく足場があると思うのです」（187ページ）と述べて、社会的な課題を解決するのに仏教が大きな役割を持ち得ることを指摘している。ここでいう「仏教の到達した心」の具体的な内容は、種々の観点から示されているが、どれもコンパクトにまとまりながらも丁寧な解説が施されており、難しい印象は感じられない。

本書は親しみやすさに加えて読みやすさも備えていながら、仏教において心がどのように探究されてきたか、そのさまざまな様相を知ることのできる格好の一冊である。仏教に興味を持つ方だけでなく、「心」に関心を寄せる多くの方に手にとっていただきたい。

『越前 浄土真宗御門徒を支えた道場さんを訪ねて』道場研究会編 著（道場研究会 2016年6月15日 本体1,000円＋税）

「道場」と聞くと、どのような場所を想像するだろうか。多くの人は、剣道や柔道など、武道の稽古場を思い浮かべるかもしれない。しかし、「道場」とは、さとり（=道）を開く場所というのが本来の意味であり、釈尊がさとりを開いた菩提樹下や、仏道修行の場所を指す。浄土真宗においては、門信徒が仏法聴聞をする「聞法の場」を道場と呼んできた。とくに越前地方（福井県嶺北）における「道場」は、寺院とは別に、地域の人々が集まって仏事を勤める宗教施設を指す。越前地方の道場は各集落にあり、土地の人々は親しみを持って「道場さん」などと呼んでいる。道場の管理は、「道場主」と呼ばれる在家者（僧侶ではない仏教徒）を中心として、地域の人々が行っている。

本書は、越前地方に残る浄土真宗の道場を紹介するものである。各道場の歴史や現状の解説とともに、建物や行事の様子などが写真で紹介され、地域に信仰が根付き、道場が地域の人々を結びつけている様子が感じられる。さらに、行事日が紹介されている道場もあることから、実際に道場めぐりをすることもできる。本書を片手に「道場さん」を訪ねてみてはどうだろうか。

なお、越前地方には、本書で紹介されている以外にも道場が存在するが、存続が難しくなっている道場もある。本書では、再び訪れた時には建物が無くなっていたことや、建物解体ために仏具を運びだしているところに立ち会ったことなども語られている。

その存在が消えようとしている道場がある中、地域の方々に守られ、受け継がれている道場の現状を伝える貴重な一冊である。

なお、本書は一般の書店での取り扱いがないので、道場研究会（福井市上森田町１４－２３－１、電話 ０７７６－５６－０４０３）まで問い合わせられたい。

おててのしわとしわをあわせて…しあわせ

はせがわ

つなぎます。心と、いのちと、人。

皆様に選ばれて2015年もまた
仏壇ご成約数No.1

※2015年（株）鎌倉新書調べ

関東地区85店舗・全国で117店舗

**墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。**

昭和59年
京都西本願寺阿弥陀堂
昭和大修復事業

昭和62年
京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業

昭和63年
福岡証券取引所
業界初の株式上場

平成6年
大阪証券取引所
市場第2部株式上場

平成24年
東京証券取引所
市場第2部上場

平成25年
東京証券取引所
市場第1部上場

（2017年2月現在）

横浜・川崎地区の店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	通話無料	0120-767-698
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	通話無料	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区戸塚町4670-1	通話無料	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	通話無料	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-1-1 らびすた新杉田1F	通話無料	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	通話無料	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡4-23-4	通話無料	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	通話無料	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	通話無料	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	通話無料	0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	通話無料	0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	通話無料	0120-594-345
港北ニュータウン店	横浜市都筑区茅田東4-2-24 サンステージ北村1F	通話無料	0120-760-576

営業時間／午前10時～午後6時30分（不定休）日曜・祝日も営業いたしております。

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派　神奈川組

円光寺（えんこうじ）
〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21
石川　康承　☎044-266-2677

宝円寺（ほうえんじ）
〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10
飯田　琢亮　☎044-222-3941

光徳寺（こうとくじ）
〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3
林　信順　☎044-333-3997

正楽寺（しょうらくじ）
〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49
佐々木俊博　☎044-522-1961

髙願寺（こうがんじ）
〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12
宮本　義宣　☎044-777-6544

長念寺（ちょうねんじ）
〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416
小林　泰善　☎044-911-2549

妙延寺（みょうえんじ）
〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1
山本　浩真　☎044-966-5304

常念寺（じょうねんじ）
〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203
古市　道仁　☎044-988-0205

浄照寺（じょうしょうじ）
〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7
加藤　孝充　☎044-855-2780

善龍寺（ぜんりゅうじ）
〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤分町29-51
斎藤　幸紹　☎045-491-9431

善教寺（ぜんきょうじ）
〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396
平等　勝尊　☎045-541-7684

教覚寺（きょうがくじ）
〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395
(代務)平等　勝尊　☎045-883-1010

光輪寺（こうりんじ）
〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9
村石　恵照　☎045-561-8671

東善寺（とうぜんじ）
〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29
長谷尾大圓　☎045-911-3509

長徳寺（ちょうとくじ）
〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1
平塚　大乗　☎045-911-7351

寿福寺（じゅふくじ）
〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1
多田　龍空　☎045-942-3721

最乗寺（さいじょうじ）
〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277
日野　教秀　☎045-941-3541

慈恩寺（じおんじ）
〒224-0055 横浜市都筑区加賀原2-18-1
小泉　敬信　☎045-934-8648

西勝寺（さいしょうじ）
〒225-0003 横浜市青葉区新石川1-10-8
藤下　悌乗　☎045-911-0156

覺永寺（かくえいじ）
〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391
喜代多證顕　☎045-901-0570

西法寺（さいほうじ）
〒225-0025 横浜市青葉区鉄町 1654
西村　信也　☎045-349-7977

長延寺（ちょうえんじ）
〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440
雲居　玄道　☎045-932-3348

最願寺（さいがんじ）
〒230-0001 横浜市鶴見区矢向4-19-18
藤江　義昭　☎045-571-4694

宝光寺（ほうこうじ）
〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5
藤田　恭爾　☎045-201-3509

善然寺（ぜんねんじ）
〒232-0061 横浜市南区大岡 2-26-17
長谷山顕俊　☎045-741-2351

宣正寺（せんしょうじ）
〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18
早島　大英　☎045-731-2679

浄光寺（じょうこうじ）
〒241-0005 横浜市旭区白根 8-1-18
白井　浄信　☎045-953-3650

清来寺（せいらいじ）
〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895
曽我　求真　☎045-951-0012

徳蔵寺（とくぞうじ）
〒241-0816 横浜市旭区笹野台 3-9-9
寺田　崇裕　☎045-364-2266

蓮向寺教会（れんこうじ）
〒252-0336 相模原市南区当麻 863-30
北條　大慈　☎0427-77-3011

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所
住蓮寺（じゅうれんじ）
〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19
開田　蓮成　☎045-341-7455

磯子布教所
真行寺（しんぎょうじ）
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台25-47
中戸　達雄　☎045-623-4480

川崎多摩布教所
慶念寺（きょうねんじ）
〒214-0012 川崎市多摩区中野島 4-24-2-5
小林　賢五　☎044-819-5482

「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組（そ）」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

組報かながわ VOL.30

■ 発行日　2017年3月15日（毎年1回3月発行）
■ 編集発行　浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
推進委員会
〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18 宣正寺内

「ガナ」とは、サンスクリット語で、「集まり」という意味です。